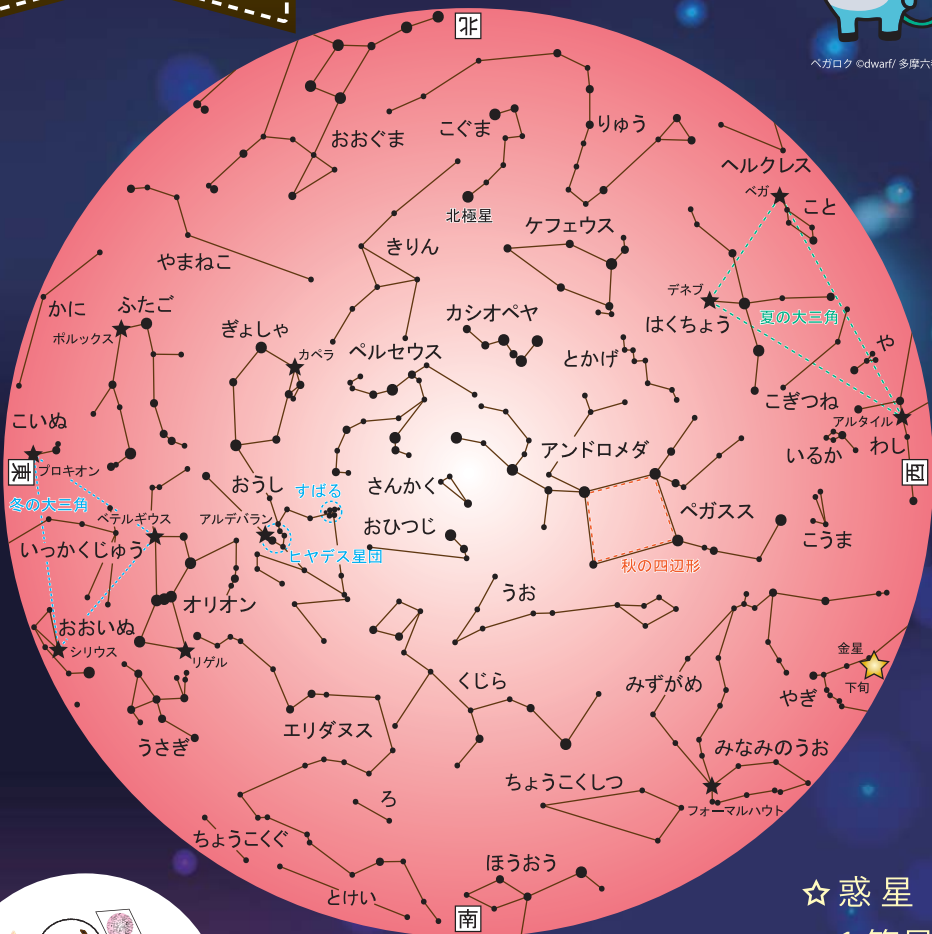


12月の星空

上旬：21 時頃
中旬：20 時頃
下旬：19 時頃



ベガロク ©dwarf/ 多摩六都科学館



星座案内のつかいかた

星座盤は空にかざして方位を合わせて見てください。
(空と重ねると東西の向きが正しくなります)



多摩六都科学館
Tamarokuto Science Center

☆惑星

- ★1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下

2019年 12月のおもな天文現象

12/4	上弦	
12/9-13	金星と土星が並ぶ(夕方、西の空)	
12/12	満月	
12/15	ふたご座流星群のピーク(午前2時頃)	
12/19	下弦	
12/22	冬至	
12/23	月と火星が並ぶ(明け方、東の空)	
12/26	新月	部分日食(東京) 日食の始まり 14時28分 最も大きく欠ける 15時35分 日食の終わり 16時30分 (日の入り16時34分)
12/29	月と金星が並ぶ	

おうし座

おうし座には、「ヒヤデス
星団」と「プレアデス星団」
という、望遠鏡や双眼鏡

がなくても見ることができる

星々のあつまりがあります。おうしの背中で
かがやくプレアデス星団は、「すばる」や
「六連星」とも呼ばれます。視力に自信が
ある人なら街中でも4~6つの星を見分け
ることができるかもしれません。

ワンポイント
星座★



今月のポイント

全編生解説プラネタリウムのみどころ 赤い星・ベテルギウスの灯(ともしび)



みなさんは冬の星座の代表格である、オリオン座の形を知っていますか?串団子のように星が3つ並び、さらにその周りを4つの星が囲んで、砂時計のような形と言われることもあります。この星座は神話に登場する森の狩人・オリオンの勇ましい姿です。

もし、このオリオン座の星の1つがなくなってしまったら…みなさんは驚くでしょうか。オリオンの右肩に輝く明るい1等星、赤い星・ベテルギウスの灯(ともしび)を見つめましょう。

令和元年をしめくくる天文現象

令和元年の終わりには、注目の天文現象が2つあります。

1つ目が、12月15日の未明にピークを迎える「ふたご座流星群」。月明かりがまぶしいため条件は悪いですが、街中でも見やすい流星群のひとつです。万全の寒さ対策をして、じっくりと時間をかけて空を広く眺めるのがコツです。月を手で隠す、月が見えない方向に注目するなどの工夫で空が少し見やすくなります。2つ目は、26日の部分日食です。東京では、夕日が欠けたまま沈む「日没帯食」を観測することができそうです。ただ、夕日とはいえ肉眼での観察は危険を伴います。日食グラスの準備を忘れずに、今年最後の天体ショーをお楽しみください。